

令和4年度第1回神戸市歯科口腔保健推進検討会 議事要旨

1. 日 時：令和4年7月20日（水）19:00～20:40
2. 場 所：三宮研修センター8階805号室（WEB併用）
3. 参加者：足立会長（現地）
 （現地）：岩本委員、栗原委員、櫻井委員、末瀬委員、杉村委員、高橋委員、田口委員、坪田委員、中谷委員、西尾委員、三代委員、宮本委員、百瀬委員、山口委員、山本委員（50音順）
 （WEB）：高木委員、高見委員、武貞委員、谷池委員、中田委員（50音順）

4. 内 容

議題1 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第2次）」の取り組み状況について

議題2 オーラルフレイル対策事業について

議題3 小学校でのフッ化物モデル事業について

事務局より、下記資料について説明

資料1 令和3年度歯科口腔保健に関する施策の実施状況報告

資料2 オーラルフレイル対策事業について

資料3 小学校でのフッ化物モデル事業について

○フッ化物応用について

委員：P.11の保育所（園）・幼稚園等でのフッ化物洗口で、オミクロン株の拡大の影響はないのか？安全に行われているのか？

事務局：感染対策を行って実施されていると思う。クラスター調査まで行ったわけではないが、中止するところまでの判断は持っていない。

委員：園側に対策を委ねているわけですね。保健所としても関与すべきでは。

事務局：職員向けの研修会は、コロナの感染拡大で令和2年度は中止していたが、令和3年度から再開した。研修会では、口腔衛生学会のコロナ流行下での指針をもとに、感染対策、飛沫対策に留意するよう、職員向けに指導している。歯科医師会からも講師派遣して頂き、感謝している。

委員：小学校でのフッ化物洗口・塗布のモデル事業は順調に進んでいると思っている。現在、小学校3年生が洗口を実施。塗布は9月と2月に実施予定。今後、洗口か塗布かどちらを重点的に進めていくかについて、考える時期かとは思う。効果検証も必要ではないか。

事務局：フッ化物塗布2校、洗口2校を、モデル校として選出している。フッ化物塗布は、今年9月に1回目を、翌年2月に2回目を予定している。今日も塗布のモデル校で打合せを実施。今年度は洗口と塗布を継続して実施できれば、今年度が終わってから、3～4年後のことを見据えて今後の進め方について検討したい。

委員：一度、中止してしまうと再開時にはハードルが高くなる。一定のルールを決めておくこともいるのでは？

事務局：基準については、学校現場、保健所、歯科医師会、歯科衛生士会と検討・協議して構築していければと考える。

○歯周病について

会長：歯周病の増加について、いかがでしょうか。

委員：学齢期において、う蝕は減る傾向にあるが、歯周病は増加傾向にあるのは間違いありません。小学校ではう蝕は減っているが、地域格差がある。

会長：小・中・高校で歯周病のことを教える必要があるが、学校での教育・指導はちゃんとなされているのでしょうか。

委員：う蝕は減っているが、年齢とともにう蝕は増加している。歯周病の教育指導が必要。知識不足で、大人になってからの歯肉炎の増加が抑えられていない。フッ化物利用の有無で、むし歯が決まる。歯肉炎について、次期プランに反映することが必要。

委員：青年期・壮年期の取組不足は否めない。政府の骨太の方針も、財源を考えると、あまりあてにならない。最近、企業から歯周病検診の依頼があり、今後、企業の取り組みに期待している。官一民の協力体制が必要。

会長：政府の骨太の方針を受けた国民皆歯科検診については、いかがでしょうか。

委員：日本歯科医師会の担当役員の立場で正確にお伝えする。国民皆歯科健診については、骨太の方針 2022 が令和 4 年 6 月に決定した。歯科検診の義務化による医療費の削減については先走り感が強い。歯科については、2017 年安倍内閣時に骨太の方針の中に、初お目見えしている。2022 年には「全身の健康と口腔の健康に関する科学的根拠の集積と、国民への適切な情報提供、生涯を通じた歯科健診（いわゆる国民皆歯科健診）の具体的な検討。

オーラルフレイル対策、疾病の重症化予防につながる歯科専門家による口腔健康管理の充実、歯科医療職間・医科歯科連携をはじめとする関係職種間・関係機関間の連携。歯科衛生士・歯科技工士の人材確保、歯科技工士を含む ICT の活用を推進し、歯科保健医療体制の構築と強化に取り組む。また市場価格に左右されない歯科医療材料の導入を推進する。」ということが今回の骨太の方針に盛り込まれました。

「生涯を通じた歯科健診の充実を図る」いわゆる“国民皆歯科健診”については、「具体的な検討をする」となっており、より実効性が増すものである。

18 歳以上は節目健診だけで、自治体によっては全く歯科健診がない。義務化が先行したが、現時点で義務化を検討するわけではない。「法的な整備を検討する」となっている。歯科健診による医療費の削減は、結果である。日本歯科医師会長は、大事なことは健康寿命を伸ばすことと言っている。歯科健診については、3～5 年かけて具体的にすすめていきたい。全世代にわたる歯科健診は大阪府吹田市、東京都港区が実施している。神戸市のオーラルフレイルチェックのご意見を頂き、国へフィードバックしたい。

議題 4 「こうべ歯と口の健康づくりプラン（第 2 次）」の次期計画策定について

議題 5 歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール（予定）

事務局より、下記資料について説明

資料4-1 こうべ歯と口の健康づくりプランの現状および国の目標値について

資料4-2 (仮称)「こうべ歯と口の健康づくりプラン(第3次)」骨子案

資料5 令和4年度歯科口腔保健推進関連会議等スケジュール(予定)

事務局:(仮称)こうべ歯と口の健康づくりプラン(第3次)はA4サイズ8ページにまとめる。第2次の概要版(6ページ)程度とし、内容は濃く、凝縮する予定。策定作業よりも実行することに重点を置きたいと思っている。

今後のスケジュールは、今回の検討会また懇話会での意見を集約してプラン案をまとめる。10月中旬で2回目の検討会、その後懇話会を開催してプラン案を披露する予定。年度末に策定のため、年内にはパブリックコメントをする必要があり、その結果を3回目の検討会・懇話会に諮り、了承を得るようにしたい。

委員:資料4-1で学齢期から歯肉炎が増加傾向にある。歯肉炎予防には歯間清掃用具を使用する必要があるが、資料4-1の指標には歯間清掃用具の使用の有無が必要と思うがその記述がない。前調査結果でそのデータ、分析結果はあるか?

事務局:「こうべ歯と口の健康づくりプラン(第2次)」冊子P.16の「歯垢をとる(ブラークコントロール)」のところにデータを記載している。40歳歯周病検診の間診票によると、約2割が毎日使用している結果だった。

○施設

委員:P.55に口腔機能について大きく取り上げてもらっている。自ら来る人は問題ないが、在宅入所施設のかたが問題の大きな状況にある。第2次プラン冊子でもP.40に高齢者施設での口腔管理の取り組みの記載があるが、施設の状況はどうか?把握できていないのでは?施設の協力歯科医が他都市から来ているため、地元北区の歯科医師が関与できていない。

事務局:老人施設連盟とかに声をかけ、歯科医師会と意見交換ができれば。

委員:より地元根差した対策になるようにしたい。

○歯周病対策

委員:学齢期~40代の働き世代にかけて、歯周病対策について、次期プランに具体的に実効的なプランとしてどう盛り込んでいくかが課題ではないか。

事務局:認識はしているが、対策はこれからである。

事務局:データに基づく結果の提示が必要である。放っておくとこうなると、ある意味、怖がらせることも必要と考えている。

会長:総花的になりすぎると弱くなるので、何かキャッチーな言葉も必要ではないか。歯周病と糖尿病の因果関係はいかがでしょうか?またコロナ起因の肺炎より誤嚥性肺炎のケースが多いとも聞いており、口腔が関与している。

○多職種連携

事務局:ライフステージ7の高齢期以降が特にポイントで、歯だけでなく「フレイル」の取り組みとして、「口」について、栄養士やSTなど含む多職種連携の総合力で考えてゆくべきでは。

- 委員：西区の連携会議では、多職種の方々が口腔機能に関心が出始めている。
- 委員：多職種連携にはツールが必要である。歯科衛生士会では、平時から活用し災害時にも使えるツール「健口手帳」を作成した。今年は、モデル的に兵庫県下10ヶ所で使ってもらっている。神戸市は5か所の歯科診療所で実施している。モデル結果の評価を集め改良してゆく。
- また、事務局の意見で、市民へのプランの内容として根拠のある情報を市民にとの意見は、同様に思う。市民への、プランの具体的な内容は、分かりやすく市民の気運が高まることが重要と思う。
- 委員：管理栄養士からは、噛めなくなることにより食事形態の変更に直結する。食べなくなることにつながっているが、歯科医師との連携という概念がほとんどない。
- 委員：兵庫区では管理栄養士も入った多職種連携の嚥下対策セミナーを行う。今後、神戸市が主体的に関与してほしい。
- 会長：神戸市では多職種連携の口腔機能管理に関する専門部会を立ち上げている。ケアマネ向けのアンケートでは、施設では管理栄養士がキーパーソン、在宅では訪問看護がキーパーソンとなるという結果であった。

報告1. 訪問歯科検診・訪問口腔ケア実施状況

報告2. 口腔がん検診事業実施状況

委員より、下記資料について説明

資料6 訪問歯科診療・訪問口腔ケア事業実施状況（神戸市歯科医師会提供）

資料7 口腔がん検診事業実施状況（神戸市歯科医師会提供）

委員：昨年度からインシデント報告、医療安全の報告も上げるようにしている。

委員：各区全てに登録歯科衛生士がいる。摂食嚥下リハビリテーションなどの認定を持っている歯科衛生士もいるので、ぜひ活用を。

会長：口腔がんは先進国では減っているのに、日本だけが増えている。

委員：摂食嚥下の歯科衛生士を育成しているなので、ぜひ活用を。

事務局：意見のある方は7月27日（水）までにメールでいただきたい。よろしくお願ひします。

以上